




Creation and evaluation of a method for improving self-management skills for patients with type 1 diabetes utilizing an Internet bulletin board

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kawahigashi, Yoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31456

博士論文審査結果報告書

報告番号	医博甲第2245号
学籍番号	0927022009
氏名	川東 庸子

論文審査員

主査(教授)	須釜 淳子	
副査(教授)	稲垣 美智子	
副査(教授)	表 志津子	

論文題名 Creation and evaluation of method for improving self management skill for patients with type 1 diabetes utilizing an Internet bulletin board

論文審査結果

【論文内容の要旨】

若年者に多く発症頻度が低い1型糖尿病患者は、インスリン枯渇という病態も加わり、血糖コントロールの困難性、心理的問題が報告されている。本研究は、先行研究（修士論文）で明らかにした「患者のもつ1型糖尿病患者特有の孤独さや日常的な出来事への対応の不全さ」を補う方法として、インターネット掲示板を活用した自己管理能力支援方法を試作し、その効果を明らかにした。

支援方法は、患者（患者が幼少の場合は親）と医療者（医師と糖尿病療養指導士）をメンバーとする完全会員制の掲示板に会員が自由に匿名を用いた書き込みをし、また掲示板管理者は、メンバーの外来受診時に血糖値の推移が分かる図示された一覧表を渡す方法である。評価は開始後1年に行った。その結果、患者25名、総数33名が参加者であった。書き込みをした患者9名、閲覧のみの人は16名であった。書き込み総数は258件、閲覧累計は2394件であった。支援方法の効果は、血糖コントロール指標の改善が、開始時から8か月後に開始時より有意に改善し5か月間持続した。掲示板の必要性に対しては「必要」が62%、「将来的に必要となる」が38%で、血糖測定回数は望ましいといわれる1日3回以上となった人は2名であった。また糖尿病問題領域質問票20項目中3項目において有意に得点上昇がみられ、これらは、糖尿病と真剣に向き合うことによる上昇の可能性があると考察した。

以上より、試作した「インターネット掲示板を活用した自己管理能力支援方法」はいくつかの課題はあるものの活用可能な新しい方法としての可能性を示すものである。

【審査結果の要旨】

本研究により示された1型糖尿病患者への自己管理能力向上の支援方法は、これまで困難とされてきた具体的な療養行動への支援や心理的課題への支援方法の開発であると同時に今後さらなる開発の可能性を示したものである。今後の1型糖尿病医療における新たなケアの方法の開発に大きな影響を与える点において高く評価される。公開審査における質疑では掲示板の書き込みだけではなく、データを渡す効果の位置づけを明確にする必要性およびいったん改善したデータが再度上昇する点においての見解が求められたが質疑の対応において適切であった。よって博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。